和歌山県地球温暖化対策情報誌

わおん通信

2012 夏号

CONTENTS

2面 ■ 県の節電アクション

3面 ■ 節電の夏を乗り切る取り組み21

4面 ■ 全国各地のとりくみに学ぶ⑤
菜の花には大きな可能性がある～秋田県

5面 ■ いま、自転車が人気

6面 ■ 各協議会や推進員のとりくみ紹介

7面 ■ 推進員さんひょっこり訪問記①

8面 ■ INFORMATION

和歌山県

県の節電アクション

この夏、関西電力管内において、電力不足が懸念されています。

県では行政、事業者、県民が一丸となって節電に取り組む「わかやま夏の節電アクションプラン」を作成しました。

【節電目標】平成22年度比で10％以上の節電
※今後の電力需給状況により節電目標等を見直すことがあります。

【節電期間】平成24年９月７日（金）までの平日
（８月13日～15日を除く）

【節電時間】９時～20時

■県庁の取組（県庁では目標を15％以上とします）

・冷房時間を１時間短縮、室温28℃以上の徹底
・課室照明を原則20％以上消灯
・電気ポット等の使用停止
・一部エレベーターの運転停止
・定時退庁の徹底　　など

■家庭に向けての働きかけ

・エアコンの控え過ぎなどによる熱中症などに注意し、無理のない範囲で御協力お願いします。

■産業・業務部門に向けての働きかけ

・製造業、医療機関、商業施設等に対しては、業務に支障のない範囲での自主的な協力をお願いします。
・経済活動に支障が出ないオフィスなどに対しては、積極的な協力を呼びかけます。

■県のサポート等

・「家族でお出かけ節電キャンペーン」を実施。県立近代美術館、県立博物館、県立紀伊風土記の丘資料館、県立自然博物館では、７月18日から８月31日の平日、入館料を半額割引を実施します。
・和歌山県中小企業融資制度による新エネ・省エネ設備の導入を支援します。
・県の産業別担当者が県内企業の節電取組状況を調査し、節電ポイントなどを助言します。

第11回わかやま環境賞決まる

平成24年度和歌山県環境月間記念行事
第11回わかやま環境賞表彰式が開催されました。

環境保全に関する実践活動が、他の模範となる団体又は個人を表彰し、その活動事例を広く県民に紹介することにより、県民の環境保全に関する自主的な取り組みを促進することを目的として、平成14年に創設されたわかやま環境賞表彰式が、6月5日の「環境の日」にホテルアバローム紀の国にて行われました。

11回目となる今回は、25件の応募の中から8団体が選ばれ、表彰状と記念品が授与されました。大賞には生ごみ堆肥による畑ゴンボ栽培で耕作放棄地を復活させるなどの環境保全活動に取り組んだ「プロムナード国城（橋本市）」が選ばれました。

表彰式に続いて、中串孝志氏(和歌山大学観光学部准教授)が「ジオツーリズムと和歌山」と題して講演。紀南地域の円月島や橋杭岩、那智の滝など、独特な地形地質で観光客を惹きつける、「ジオツーリズム」という新しい観光形態とその導入方法を解説しました。

【受賞者一覧】

わかやま環境大賞（１団体）

●プロムナード国城（橋本市）
生ごみ堆肥による畑ゴンボ栽培で耕作放棄地を復活させるなどの環境保全活動

わかやま環境賞（４団体）

●学校法人きのくに子どもの村学園 きのくに子どもの村中学校（橋本市）
学校でのビオトープ作りにより生態系を回復させるなどの環境保全活動

●田辺市立中辺路中学校（田辺市）
熊野地域の照葉樹林再生のための森林ボランティア活動

●デュプロ精工株式会社（紀の川市）
紙をリサイクルするトナー除去機能搭載の小型製紙装置の開発

●トンガの鼻自然クラブ（和歌山市）
トンガの鼻とその周辺における美化活動や植樹，環境教育活動

特別賞（感謝状）（３団体）

●有限会社ユタカサービス（紀の川市）
アイドリングストップ促進に寄与する車両用副空調システムの開発

●和歌山県立和歌山高等学校育友会（和歌山市）
土いじりの会活動を通じた学校やその周辺の美化・植栽活動

●和歌山市婦人団体連絡協議会（和歌山市）
明るく住みよい街づくりを目指した長年の美化や緑化活動

節電の夏を乗り切る取り組み21

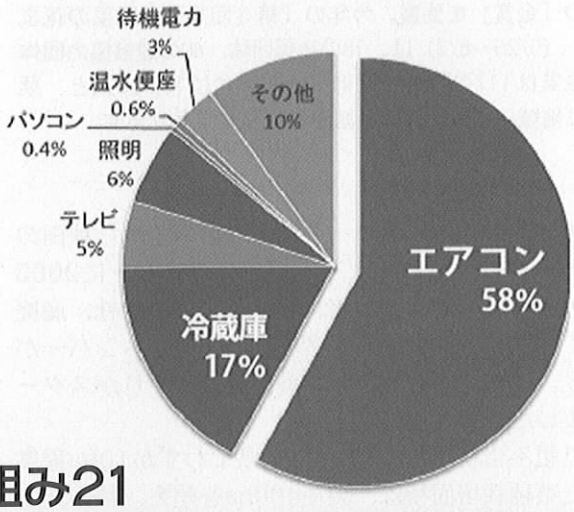
原子力発電所の多くが停止していることから、この夏の電力の需給状況について、様々な議論がさかんにメディアを賑わせています。

こうした情勢を受けてエネルギー問題への関心はかつてなく高まっており、地球温暖化防止に向けた省エネ・節電への取り組みに積極的に応えていただきやすいケースも増えています。

そこで、全国地球温暖化防止活動推進センターは、今年の夏の電力需給の状況を踏まえたパンフレット「家庭で取り組む節電マニュアル」（Ａ４版・16頁）を発行しました。和歌山県センターにも一定部数を備えておりますので、必要な方はお申し出ください。また、このパンフの中で以下を「夏の取り組み21」として提起しています。まず自らできるところから実践するとともに、この取り組みの輪を回りにも広げてゆきたいものです。

夏の昼間（14時頃）の電気機器の使用例

出典：国家戦略室
第８回エネルギー・環境会議　資料３



夏の取組み21

対象	分野	対策
屋外	遮熱・断熱など	1．窓に空気層のある断熱シートを貼る(もしくは内窓を設置する)
		2．部屋の外によしず、すだれを設置する
		3　お風呂の残り湯で朝夕に打ち水をする
リビング	冷房	4．扇風機・うちわなどを活用する
		5．冷房の温度設定を２８℃にする
		6．冷房時にカーテンやブラインドを閉める
		7．冷房時に家族がいっしょの部屋で過ごす
		8　エアコンのフィルターを掃除する(月2回程度)
		9．冷房を使う時間をできるだけ短くする(就寝前1時間はオフなど)
		10．冷房時に部屋のドアやふすまを閉め、冷房範囲を小さくする
	照明	11．白熱電球を電球型蛍光灯やLED電球に交換する
		12．照明を使う時間を可能なかぎり短くする
	テレビ	13．テレビを見る時間を少なくする(つけっぱなしにせず、見る番組を絞るなど)
		14．テレビの画面を明るすぎないように調整する
台所	保温	15．電気ポットの保温をやめる
	調理	16．炊飯ジャーの保温をやめる
	冷蔵	17．冷蔵庫を壁から適切な距離を離し、周りや上にものを置かない
		18．冷蔵庫の温度設定を強から中にする
		19．冷蔵庫を整理し、開ける時間を短くする
洗濯	乾燥	20．衣類乾燥機や洗濯機の乾燥機能を使わない
その他	待機電力	21．電気機器は使い終わったらプラグを抜くか電源タップを切り、待機電力を減らす

全国各地のとりくみに学ぶ⑤

菜の花には大きな可能性がある 秋田県

（「関わるメンバーの多様さ」が地域を元気に）～NPO法人あきた菜の花ネットワーク～

今回、秋田県内において環境を守り、農業・農村を元気にしている「NPO法人あきた菜の花ネットワーク」の活動をとりあげます。同団体は、「低炭素杯2012」で地域活動部門の「金賞」を受賞。今年の「第３回鳥海高原菜の花まつり」（5/26～6/3）は、18の後援団体、40の運営協力団体、協賛企業は117の態勢で開催し、来場者は16,000人と、菜の花は地域に根付いた取り組みとなりつつあります。

鳥海高原　菜の花まつり会場での環境学習会

あきた菜の花ネットワークは、「菜の花から秋田の農業と農村を元気にしよう！」をスローガンに2005年11月設立。農家、消費者、自治体、建設会社、産廃業者、運送会社、大学関係者など、多様なメンバーが集まり、菜の花から始まる循環型社会づくりがスタートしました。

取り組み当初（2004年）、全県でわずか10ha程度だった菜種栽培面積は、現在400haを超え、秋田県を全国トップクラスの菜種産地に成長させてきました。菜の花を植えれば食用菜種油が搾れます。同ネットワークでは、搾油体制整備の指導や、「菜ピュア」など秋田県産菜種を100％原料とした油のブランド化を推進しています。学校給食への導入も始まり、「地産地消」や「フードマイレージ」について考える機会にもなっています。

また、菜の花プロジェクトを契機に始まった家庭の廃食油回収（県内25市町村でとりくみ）の支援、その廃食油から高品質のバイオディーゼル燃料（ＢＤＦ）をつくるなど、菜の花を「多段階」に活用する実践と普及・支援を行っています。ちなみにＢＤＦは無水洗の「乾式製法」で製造し、輸送トラックやトラクターに使用。副産物のグリセリンはアスファルト工場の助燃剤として利用されています。

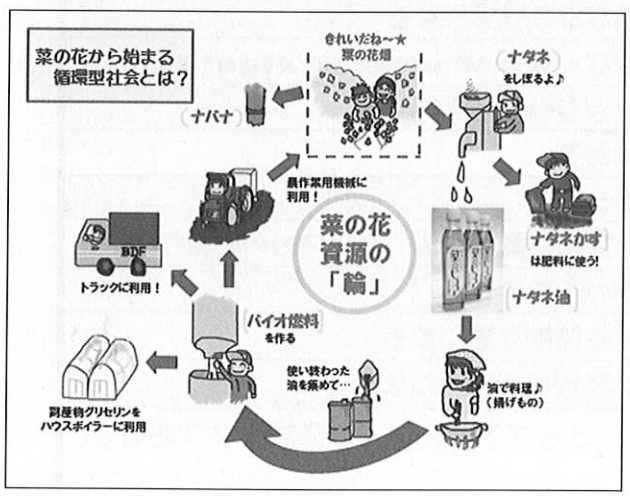
さらに、同ネットワークは、菜種栽培やＢＤＦづくりの講習会、菜の花フォーラムや菜の花フェスティバルの開催など、秋田県立大学と連携・協力しながら活動を展開しています。

同ネットワークのメンバーである運送会社では、自主生産したBDFを100％使って20台のトラックを走らせて営業していた時期もありました（現在は原料となる廃食油不足により休止中）。また、循環型社会形成に貢献したいとして活動している農家グループと契約を結び、BDF製造の一部作業を委託したこともあり、企業と農家のユニークな協働関係を築いています。

専務理事の鈴木秀雄さんは「自分で何をするのかがハッキリ解れば、動き出します」、「各自が得意な分野を活かして協力しており、多様なメンバーがいることで障害に対する抵抗力が増し、実現不可能に思えることも可能にします！」と語ります。

「菜の花には大きな可能性が秘められている」。「低炭素杯2012」での金賞受賞は、実践の中でつかみ取ったその「確信」に贈られた賞なのでしょう。

秋田県は少し遠いですが、来年の「鳥海高原菜の花まつり」に是非行ってみたいものです。



菜種搾油体験

いま、自転車が人気

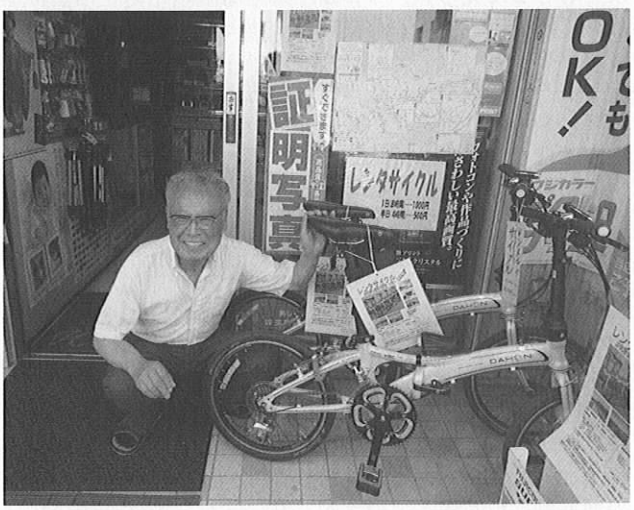
最近、「観光」「健康」「エコ」「通勤」などの目的で自転車利用が全国的に盛り上がっています。

県内でも新たなスポットが誕生しました。5月20日にJR和歌山線粉河駅前でスタートした「紀の川レンタルサイクル」。駅前の「とんまか通り」を歩くと、ぱっとオレンジ色の自転車が目に飛び込んできました。20インチの小さなタイヤで、身長142cm以上の方であればサドル調整で乗車可能です。レンタル窓口のカメラ店、鳥居さんにお話を伺い、早速試乗してみました。漕ぎ出しがとても軽く、坂道でもスイスイ。導入したモデルは、メーカー（DAHON）最新型のスポーツタイプ、しかも折りたたみが可能で、サドル下の専用袋を使って収納すれば電車移動もできるところがポイントです。

■ 観光名所を結ぶ移動手段として

今回の事業を担当されている和歌山県那賀振興局の前田和也さんによると、今後は地域の観光名所を結ぶ移動手段として定着させていきたいとのことでした。専用のサイクリングマップもあり、おすすめコース「伊太祁曽神社～青州の里」は片道約28km。自動車と比較すると約5.5kgものCO_2削減効果が期待できます。体力に自信のある方は往復で、そうでない方は片道を電車利用でといった楽しみ方もできそうです。

和歌山市内でも「城まちeco観光レンタルサイクル」を実施中。今年で３年目となり、車種も5種類に。従来の普通タイプ（ママチャリタイプ）に加え、電動アシスト、ミニ電動アシスト、シティタイプ、そしてスポーツタイプです。



紀の川レンタルサイクル窓口の鳥居さん

城まちeco観光レンタルサイクルの藤永さん

スタッフの藤永さんは最近、京都からの利用者に専用マップでおすすめルートを紹介。「時間的に全部回りきれなかったけど、とても楽しめた、ぜひまた来たい」と言ってもらえたことが嬉しかったそうです。

■ ビジネスに利用する人も増加

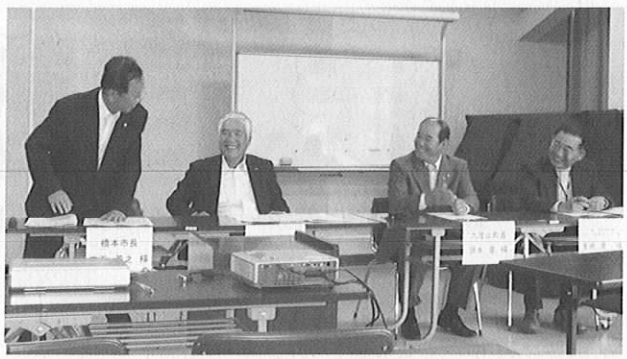
和歌山市商工まちおこし課の榎本和弘さんは「最近は観光利用にとどまらず、特に大阪からの出張者による利用も増えています。ビジネスホテルや各種企業などとの連携をさらに広められれば・・・」とのことでした。

ますます盛んな自転車活用。特に注目すべき、通勤、配達や訪問といった業務利用が、今後自動車に代わる交通手段となるためにはどんなことが求められるでしょうか。

一つの例として、公共交通との乗り合わせが考えられます。神奈川県の神奈川中央バス(株)では、「停留所隣接の駐輪場」や「自転車搭載型バス」というサービスを行なっています。利用客のためにバス停の一部を駐輪スペースにし、自転車を降りてすぐにバスに乗れる。また、自転車をバスの専用フックに取り付け、乗降者と一緒に運んでもらうこともできます。自転車利用者がバスを上手に乗り継いで移動できるこの取り組みは、和歌山でも期待できそうです。

今後自転車が走りやすい道路の整備など、課題も多くありますが、全国各地で発展している自転車利用を、ここ和歌山でも普及させたいところです。

伊都地区１市３町の公共連携で
「新エネルギー」の創造を！
〈伊都橋本地球温暖化対策協議会〉



伊都橋本地球温暖化対策協議会（エコランドいとはしもと）は、伊都地区全体の「エコランド化」へ向けて、かつらぎ町井本町長、九度山町岡本町長、高野町木瀬町長を新たに顧問として招請し、橋本市木下市長（協議会顧問）と共に、１市３町の連携を進めることになりました。地球温暖化対策という壮大なテーマのもとに公共団体が広域で連携し、待ったなしの温暖化防止活動を展開することを目指しています。

５月26日開催の「協議会総会」の席上、木下橋本市長は「健康福祉センター」（今年12月完成）の屋根にメガソーラー発電システムを設置すると説明。これまで市が推進してきたごみゼロ、生ごみ堆肥化の取り組みと相まって、「スマートシティ構想」への第１歩を宣言。また、同席した井本かつらぎ町長も、ごみ削減への長年の取り組み（「もったいない運動」）と、森林資源の活用によって林業の活性化・里山の保全を一気に解決すべく、「木質バイオマス」の熱エネルギーとしての利用計画を披露。さらに岡本九度山町長は真田幸村ゆかりの「観光立地」をすすめ地域活性化を推進するとともに、子どもたちが自然の中で「生きる力」を学ぶ「環境教育の町」構想を提言。高野町長は公務で欠席でしたが、森林が90％以上を占める地域性を生かし、木質資源の活用が実行段階にあるということです。

市長、各町長は総会に先立って開催した『持続可能な社会づくり研究会（ＳＳ研）』にも参加し、「新エネルギー創造の新たな展開」と題した重栖氏（ＮＰＯわかやま環境ネットワーク代表）の講演に熱心に耳を傾けておられました。

（代表理事　佐藤　俊）

白浜町でエコチャレ研修会
〈紀南地域温暖化対策協議会〉

６月３日（日）白浜町の町立体育館で「第16回ごみと環境フェア」というイベントがあり、各団体・企業による展示やバザーの他、リサイクル品の大抽選会も行われ、大変な賑わいをみせていました。

今年、このイベントにエコチャレンジ研修会を取り入れていただいたのですが、地球温暖化の現状や「環境家計簿カレンダー」の使い方の説明と合わせて、家庭でできる温暖化対策のお話しをさせていただいき、約40名の参加者の方に大変熱心にお話を聞いていただきました。

白浜町は、早くからゴミ問題をはじめとした環境問題に取り組んできたので、町内に多くの環境団体があり、そのネットワークで毎年「ごみと環境フェア」を行っており、エコチャレンジ研修会にもその方々がお見えになったので熱心な方が多かったのだと思います。

そして研修会の後、主催者から、別の機会に白浜町内のホテルなどの事業者さんを対象にした研修会も持ちたいとのお話もいただいてきました。　（代表理事　多田 祐之）

由良ふるさとフェスティバルで啓発活動
〈エコネット紀中〉

５月27日（日）、由良町白崎海洋公園で行われた「元気ゆら！ふるさとフェスティバル」に、「エコネット紀中」としてブース出展し、地球温暖化防止の啓発活動を行いました。

このフェスティバルは地元商工会が中心となった実行委員会が主催したものです。昨年は雨と風にたたられましたが、23回目となる今年は晴天に恵まれ、メインステージでは、歌謡ショーやトークショー、また地元園児たちによるソーランが披露され、多くの人で賑わいました。会場内には、ＪＡや海上自衛隊など地元企業や団体が計39のブースを出展し、物品の販売やPR、啓発活動が行われました。

私たち「エコネット紀中」は、今年で３回目の出展になります。当初、町や実行委員会に出展をお願いしたときは、よそ者として見られ、「和歌山県地球温暖化防止活動推進員って何や？」という対応に悔しい思いをしました。しかし、３年目をむかえ、やっと受け入れてもらえたように思います。テントを一張りお借りし、温暖化防止に係るパネルを掲示して、来場者に温暖化防止を呼びかけました。来場者のほとんどは、メインステージでのショーが目的のようで、テントに入ってパネルを見てもらうまでには至りませんでした。しかし、県が作成した環境家計簿カレンダーを紹介すると、「それ持ってるで、家で使ってるよ」とか、ＬＥＤ電球の紹介に「家や仕事場の電球をＬＥＤに取り替えたんや」という声を聞くことができ、嬉しく思いました。また、他のブース出展者との交流もでき、意義のある活動ができたと実感できる一日となりました。

私たちエコネット紀中は、地球の温暖化を防止するためには、多くの人の温暖化防止に係る意識を高めることが必要だと考え、地元地域（有田・御坊・日高）で草の根的な啓発活動に取り組んでいます。みなさん、地球温暖化にブレーキをかけ、住みよい環境を守るために、私たちと一緒に楽しく活動しませんか。

コジロー（センター長）の

推進員さんひょっこり訪問記①

三田地区

坂田 敦子さん　山裾まり子さん

地域や家庭で地球温暖化に関する知識の普及や温暖化対策の活動推進を図る熱意と知識があると認められて、県知事からの委嘱を受けた地球温暖化防止活動推進員さんはいま、和歌山県内に130人。とはいえ、その人の置かれた環境や生活条件により、活動の仕方は千差万別です。それが交流できれば、他の推進員さんにも役立つ活動のヒントがあるかも。というわけで、今回から推進員さんへのインタビューを連載、まず最初は和歌山市三田地区で活動しておられる女性ペアをお訪ねしました。

三田地区は和歌山市の東南部にあって田畑と住宅が混在しています。山裾まり子さんと坂田敦子さんはともに養成講座１期生。「市婦連（和歌山市婦人団体連絡協議会）から人数足らんって言ってきたんよ、それでギリギリに申しこんだんな」とのこと。しかし、三田地区は環境問題に先駆的に取り組んできた地域でその取り組みをリードしてきた二人でしたから、気になっていた温暖化について体系的に学べて面白かったそうです。

活動の舞台はもっぱら住んでいる地域。自治会や婦人会はもちろん、ＪＡ女性会、日赤奉仕団、更生援護女性会、社会福祉協議会などで積極的に役職を引き受け、その活動を通じて地球温暖化の知識や対策についての啓発活動を進めています。

「推進員活動でチラシの印刷代くらいのお金でるン？ってセンターに聞いたけど、出んちゅう返事でしょ」

「推進員ですって人集めるのも、お金なかったらでけへんからね、そんな団体の行事に混じってやるようにしてるんよ」

こうしてこれまで、古紙やアルミ缶の分別収集、貴志川線竈山駅の草刈り清掃、使用済み天ぷら油を回収してのＢＤＦ燃料作りなどに地域ぐるみで取り組んできました。地域の伝統行事として和田川で行われていた精霊流しも、お寺のご住職のわかりやすい説法の協力も得て止めました。こうした取り組みの節々で開かれる会合などでは、センターや県から送られてくる資料やニュースをコピーしたり加工したりして配り、またパンフレットを見せるなどして、省エネや３Ｒの実践を訴えています。そうそう、３Ｒの活動では「我ら三田地区の歩みから、ごみに光を照らそうよ」で締めくくる「ごみに光を」という歌も作りました。（曲募集中！）

「なんも難しいことやない、自分の生活見直すとこからはじめよって」「やっぱり家庭は主婦が変わらんと変わらんからね、考えてもろて行動してくれるまで、そないに何回でも同じことを言うよ」「地球に優しい生活を主婦の手で！ってね」「省エネは家計もトクやし、主婦は元もとムダ減らしたいって意識は高いから、わかったら動いてくれるよ」

■これからの抱負は？

「たいがい働いてはって忙しいから難しいんやけど、子育て中の若い奥さんにもっと働きかけたいなあ」「三田小学校で環境とか温暖化の授業とかにも協力したいんやけどね」

■他の推進員さんに何か

「私らも一人でさあ温暖化って構えてやるのは大変やからね、いま入ってる団体とかで、ちょっとした寄り合いの機会とかに、こんなんあるでってパンフレットとかでちょっと話したらいいと思う」「トクになる話やからね、お裾分けの感じやよ」

経験豊富なお二人の話は尽きるところがありませんが、そろそろ紙面も一杯。最後は「いまは原発の問題もあって関心が高まってるから話しやすい、推進員は出番やと思うよ」と、元気いっぱいに締めくくってくださいました。

なるほどザ・ワード

STOP温暖化・焦点の言葉１

＊地球温暖化をめぐる報道などで、いま焦点となっている言葉を簡単に解説します

【ダーバンプラットフォーム】

米国や中国を含む全主要排出国を対象とする新たな温室効果ガス削減の法的枠組みを2020年から実施するための工程表。この工程表に従い、専門の作業部会が議論を詰めて2015年中に（ＣＯＰ20か）まとめることになっている。、2011年12月に南アフリカのダーバンで開かれたＣＯＰ17で、この新たな法的枠組と工程に世界が合意したことにちなむ。

【再生可能エネルギーの固定価格買取制度】

（Feed-in Tariff またはFiT）

電気事業者等による再生可能エネルギー買い取りを義務づけるとともにその価格（タリフ）を法律で定める制度。作った電気が確実に売れること、一定の利益を見込んで買い取り価格が設定されることで事業リスクを低減させ、再生可能エネルギー事業の普及を促進する効果がある。すでに世界50ヵ国以上で実施されてその効果は実証済み。日本でも７月から導入。

INFORMATION

うちエコ診断

申込受付中

無料

うちエコ診断

ライフスタイルの見直しに！
省エネ・省CO_2のために！

診断期間：2013年２月末まで

訪問診断・窓口診断・会場診断・団体診断を行っています。

- 各家庭に合わせた、オーダーメイドの対策を提案します
- うちエコ診断員が診断を行います
- 専用ソフトを用いて一目で分かるご説明をします
- 具体的な情報を提供します

STEP1 事前アンケートにお答えいただきます

STEP2 うちエコ診断の受診
- 平均値との比較
- CO_2削減目標の設定
- CO_2排出の内訳
- 削減対策と効果

STEP3 事後アンケートにお答えいただきます

お申込・お問合せ **NPO わかやま環境ネットワーク**
電話：073-499-4734 〒641-0014 和歌山市毛見996-2

【詳しく知りたい方は】
http://uchieco-shindan.go.jp
（地球温暖化防止活動全国センター　うちエコ診断事務局）

●親子でチャレンジ！ 夏休みエコ工作&エコ料理講習会

環境とエネルギーについて学び、太陽エネルギーについてどんな使い方ができるかを考え、エコ工作としてソーラーハウスの製作をします。また、「エコ料理」に挑戦。「パンプキン春巻き」や「エコ野菜スープ」など４品を調理します。

日時 **8月10日（金）** 9:45～13:00

場所 **大阪ガス ディリパ和歌山**
和歌山市十一番丁１-２（京橋バス停近く）

○ 対象・人数：小学生と保護者、９組・18名
○ 参加費：おひとり600円（材料費・保険代含む）
○ 〆　切：７月27日（金）午後５時まで
（先着順ですのでお早めに！）

共　催：大阪ガス南部リビング営業部
和歌山コミュニティー室
NPOわかやま環境ネットワーク

問合せ：わかやま環境ネットワーク
電　話：073-499-4734（月～金10-17時）

● 環境家計簿カレンダーの活用で あなたも「快適エコライフ・節電」に挑戦を！

※「環境家計簿カレンダー」をご希望の方は、和歌山県地球温暖化防止活動推進センター（下記）にご連絡下さい。

● あなたの作品、募集！

■「ストップ地球温暖化」ポスターコンクール作品■

対象：県内在住・通学の小・中学生
規格：四つ切画用紙、地球温暖化防止を呼びかける文字を挿入
申込：郵送、持参（学校を通じて）で学校名、学年、氏名（ふりがな）、作者のコメント（絵の説明）を記入した応募票（県ホームページからダウンロード可）を作品裏面に貼付けし、９月14日までに県庁環境生活総務課まで。

【発行】
和歌山県環境生活総務課
〒640-8585 和歌山市小松原通1-1
TEL：073-441-2690　FAX：073-433-3590
mail：e0317001@pref.wakayama.lg.jp

【編集・お問合わせ】
和歌山県地球温暖化防止活動推進センター
〒641-0014 和歌山市毛見996-2
TEL：073-499-4734　FAX：073-499-4735
mail：wenet@vaw.ne.jp

PRINTED WITH SOY INK　R100 この情報誌は古紙配合率100%再生紙を使用しています。